

はじめに

「むせ」、「窒息」、「脱水」、「低栄養」、「食べる楽しみの消失」、これらは、教科書に載っている嚥下障害の5大症状です。なかでも「むせ」は、最初に記述されているように、最も重要な症状です。

一方で、「むせ」は患者さんにいろいろな解釈をされることもあり、なんともぼんやりした症状であるともいえます。

「むせることはありますか?」、これは患者診察の際によく尋ねる言葉です。すると、「はい、よくむせるんです」などと返ってくることもあれば、「むせることはありません。でも、よく食事中に咳込みます」などと返ってくることもあります。

これって、「むせ」ですよ?

私たちが「むせ」とは誤嚥によって起こる重要な症状と思っけていても、患者さんからすると「むせてなあに?」ということも起こり得るのです。

「むせ」とは、食べものや唾液が気管の中に入ると呼吸が困難になったり、肺炎を起こしてしまうリスクがあるために、勢いよく空気とともに吐き出そうとする現象のことです。ですので、むせが起こるような状況、すなわち誤嚥は、できるだけ避けなければなりません。一方で、もし誤嚥してしまった場合には、自分を守るために、しっかり「むせ」て気管から出す必要があります。私たちは、むせない工夫と、しっかりむせる工夫を知り、患者さんに伝えていかなければなりません。

本書は、DHstyle2022年5月号特集およびDHstyle連載（「飲み込みにくい」「むせる」はなぜ起こる? 中年期からのむせ/2022年7月号~2023年6月号）をベースとして、より幅広く「むせ」についての理解が深められるように項目を追加し、再編しています。

みなさんには、本書を手にとることによって「むせ撲滅マスター」の道を歩みだしていただければと思います。いつまでも、おいしく、自分の口から食べる努力は、中年期から始まっているのです。

2023年9月

菊谷 武